

嘉楽中学校 学校教育目標

「将来の夢を実現するために、自らを磨き続けられる人間の育成」

- 一人一人の生徒に対し、個に応じた能力の伸長をはかる教育の推進
- 人を大切にし、あらゆる差別を許さない態度を育成する教育の推進
- 集団の中で支え合い・磨き合い・高め合う生徒を育てる教育の推進

この目標を具現化するために、一人一人の教職員が、学校体制（全教職員）で計画的・具体的・組織的・体系的にすべての教育活動の中で実践しています。平成29年度より2年間、国立教育政策研究所の指定を受け、「論理的思考」のテーマのもと、「筋道を立てて思考、判断し、表現する力の育成 ～各教科におけるノートづくりを通して～」を研究課題として授業改善に取り組みました。

こうした土台作りから、令和元年度～3年度において、京都市教育委員会の研究指定を受け、「社会につながる表現力の育成 ～主体的に「考えて話す」生徒に～！」を重点課題とし、「根拠を示し、順序立てて、簡潔に伝える」を実践するために、教科だけでなく、あらゆる教育活動で生徒が活躍できる場を設定してきました。また、この取り組みを校区小学校にも広げ実践し、ノートづくりが一定の学力をあげる効果の要因であることがうかがえました。しかしながら、コロナ禍ということもあり、表現力を育成する場が限られ、一人一人の能力を最大限に伸ばすことが不十分となりました。令和4年度では、これまでの振り返りをもとに、引き続き教科の授業だけでなく、「道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」「生徒会活動」「部活動」など、あらゆる教育活動で「自分の考え」を表現する場面を設定していきたいと考えています。

一人一人を大切にする教育の充実に努め、個に応じたきめ細かな指導を充実させ、学びへの意欲を高め、一人一人の能力を最大限に伸ばす取り組みを推進してまいります。

令和4年4月6日

京都市立嘉楽中学校
校長 古口 賢一